



1939/4/29

1939



**獨逸**  
**スーエニ**

**暗愴たる戦雲孕むダンチヒ!!**  
**獨精鋭部隊の出動態勢成る**

ダンチヒをめぐって獨逸國交は愈々險惡化し下氣味なる暗雲は全歐を覆ひ人心は著しく興奮状態を示してゐるが、獨逸は既に精鋭部隊の出動態勢は全く成りナチス突撃隊員は短剣の代りに歩兵銃を握り練々とダンチヒに乗り込みつゝあると傳へられてゐる。眞眞はダンチヒに於けるナチス突撃隊員の行進

1939/7/4

19



**獨逸**  
**スーエニ**

1939/5/2

1939



別當與吸呼心強  
**ルネソノカ研理**

**獨逸**  
**スーエニ**

**風雲急を告ぐダンチヒ**  
**波蘭の苦惱愈々深刻**

暗雲低迷二獨即發の危機を孕んで暫く推移しつゝあつたダンチヒは曰ゆる八月危機と共に再び全世界の注視を浴びて眼前に現れて來た。中歐のハゲモニーを握る英國の東洋より全面的後退を餘儀なくされる時獨逸防共軍の進撃を前に波蘭の苦惱脅威は日一日と深まつて行く。眞眞は國境に集中しつゝある波蘭機械化部隊

世界の注目を谷びつゝ

1939/8/4

1939

1939/7/4

1939/7



1939/8/26

**興亜同盟**  
**スーエズ**

**大動亂の破局は迫る!!**  
**獨波の關係愈々最悪の二線へ!!**

皮肉にも自由市の名を持つダンッチをめぐって、獨波兩國の關係は遂に最悪の事態に到達した。獨ソ不可侵條約締結の飛電一閃する歐別各國の驚愕裡に着々と進攻態勢を完了せる獨逸を相手に血を以て抗戦せん波蘭の決意は愈々堅く大動亂への破局の機は刻一刻と近づいてゐる。寫眞は猛演習を行ふ獨逸歩兵隊。

1939/9

1939/8/4

刺奮興吸呼心強  
**ル-ネアソカ研理**



**興亜同盟**  
**スーエズ**

**歐洲の火藥庫は發火せり!!**  
**獨空軍波首都を空爆!!**

『和平解決の奇蹟』特空も空しく世一日波民軍のグライウイツ放送局占據に獨波兩國の交戦の火蓋は遂に切られ國境を震撼せしめる砲聲轟く中に總統の武力には武力を以てせよの最後の實力行使命令發令された一日獨空軍は翼をつらねて波蘭の首都ワルソーに空爆を敢行し愈々大動亂勃發の懸念濃厚となりつゝある。寫眞は最新鋭を誇るドイツ重爆撃機。

19--/--/--

英獨同窓  
スーエニ



**英獨軍行動を起す  
第二次世界大戦!**

英國の宣戦布告に依り歐洲は遂に大戰に入った第一日の三日先づ英海軍はバルト海封鎖に行動を起し、獨逸空軍はその精銳を西部國境に續々集結中、これに對し佛軍も國境の備を嚴にし地上戰ではマチノジータフリード西要塞線の爭奪から火蓋は切られる。寫眞は西部國境に佛國の空を睨む獨軍。

1939/9/6

19--

グ續英

1939/9/6

19--

英獨同窓  
スーエニ



**英獨に對獨宣戦布告  
歐洲再び大戦へ!**

英佛が獨に對し波蘭より撤兵することを要求した最後通牒は遂に拒絶されるに至つたのでチエンバレン英首相は三日遂に對獨宣戦を布告し佛國も自働的に宣戦布告の状態に入りかくて歐洲は再び大戦の高中に捲込まれるに至つた。寫眞は集結せる英海軍。

1939/9/6

19--

火を吐く西部戦線  
獨軍愈々逆襲戦へ!!

# 歐洲大戰勃發第一報

## 對波軍事行動の獨の第二彈

導火線上を彷徨しつゝ、燦つてゐた歐洲大戰の口火は九月一日拂曉ヒトラー總統のドイツ國防軍に對する軍事行動開始命令に依つて遂に爆發した戰爭を恐怖し動乱に戦慄しつゝあつた歐洲は斯くして戦乱の中に捲き込まれ怒號と叫喚の坩堝の中に修羅道へと陥つたのである。寫眞は獨機空襲の第一彈に黒煙をあげて焼け落ちるポーランドSA部落九月三日伯林發信



壯強血補  
トールブ

行勢氏村森録日：輸空間濱横-島ノバノサ-便船間島ノバノサ-島ムアグ-送空間島ムアグ-港桑+音經-送電線無間音紅-林伯+路經送輸

1939/9/16

# 獨機ワルシヤワ空爆に 愕然たるロンドン市民!!

平和か？戦争か？獨波國境を注視しつゝ一喜一憂を続けてゐた英京ロンドンに飛電一閃、獨機ワルシヤワ空爆の報こそはタウンインク街を愕然たらしめた。昨日迄の平和再建の努力も空しく遂に英國をして決然戰爭参加へと殿起せしめた決定の一報であり街角に鳴る號外の鈴音は、来るべきもの、遂に來た!!の覺悟を英國國民に傳へる開戦の響きでもあつた。寫眞はワルシヤワ爆撃さるの號外賣り。森村氏携行の同盟ニュース映画より



1939/9/16

1939/5/28



興同憲  
スーエニ

# ワルソー防衛軍投降 東部戦線最後の段階へ

十七日未明より總攻撃を開始した獨軍の猛攻に堪え兼ねてワルソーの波軍は遂に十七日投降を獨軍に申入れたと傳へられ、一方西部國境からばソ聯大軍の侵入ありかくてポーランド戦線は愈々最後の段階に入った。寫眞は最後の抵抗を続けんとするポーランド軍歩兵隊。

1939/9/20

19

1939/7/14



興同憲  
スーエニ

# 果然ソ聯波領に進駐 注目される今後の動向

先頃より大動員を行つて注目されてゐた聯軍は十七日より続々波領に進入を開始した。モロトフ外務人民委員は波領の崩壊を指摘し無政府波領内にある兄弟ワライナイ人自ソシア人を救済保護するたためと放逐した。今まで中立態度を続けて来たソ聯のこの行動は頗る意味深いものとして今後の動向は極度に注目されてゐる。寫眞はソ聯赤衛軍歩兵隊。

1939/9/20

1939/9

陸軍省

ワルソー防衛軍投降

興同憲



# 戦禍を避けて獨領へ 悲慘なる波蘭農民の群

精銳獨軍の急進撃と背後よりのソ聯赤衛軍の急襲に一齊に潰滅した波蘭は悲慘にも獨ノ分割協定の下に滅亡に瀕してゐるが煙る硝煙と間斷なき空爆の恐怖より逃れるべく、波蘭農民は獨領へ〜と避難しつゝあるが、この哀れなる人羣の瞳に浮ぶ涙はそも何の涙であらうか？  
寫眞は悲慘なるポーランドの避難民達。

1939/--/--

1939/4/26

1939/4/16



# 和平への希望全く絶望 英佛、波國の舊態復歸を要求か

ヒトラー總統の和平提唱に對する英佛側の回答は全世界の注目を集め一喜一憂、全歐は不安のドン底に投げ込まれてゐるが、英佛側の回答は波國の舊態復歸を前提するものと推され、獨政界にも和平の希望は絶望視されつゝある。寫眞は嚴戒を続ける英領ジブラルタル軍港。

權益擁護の旗印

1939/10/-

1939/5/2

